海沢（2009 年 8 月 23 日）

メンバー：L 平本、金井（記）

夏の暑い一日を奥多摩の水根沢や海沢を水線通しに遡行するのは楽しい。
先週の甲府幕岩で一緒だった平本さんと海沢に行く約束をした。

海沢林道終点のあずま屋のところに車を止め、身支度をして林道を下り、天地沢出会い上のカーブミラーが 2 つ付いているところから踏み跡を辿り沢に下りる（9：49）。

淵や大きな釜を持つ小滝を泳ぎをまじえ遡行する。足元には緑色の美しい石が点在する。左岸に滝をかけて出会う井戸沢（10：40）を過ぎ、石垣の古い堰堤を越えるとあずま屋のそばで登山道が横切る。橋をくぐったところで休憩。この先が三ッ釜の滝。ここはあずま屋から探査路が来ており左岸にはしごが掛かっている。この日はいなかったが観光客が来る。我々は右岸を登る。少し行くとネジレの滝（2 段１０m）。この沢の核心部だ！まるで法螺貝のようなゴルジュで暗く威圧感があり、いつ来ても自然の造作に畏敬の念を抱いてしまう。ただし、見た目よりは難しくはない。以前は残置ハーケンのみだったが、今はシュリンゲもぶら下がっている。下段は私がリードする。釜の左から登り、狭い岩棚をトラバースし、行き詰ったところで下降し落ち口を左岸に跳んで渡る。シュリンゲがかなり古いので、すべて自分のものを使う。左岸にあるリングボルトを使い確保。そのままつるべで平本さんがリードし上段の右側の岩をクラックを利用して登る。その先が大滝（25m）。滝のまん前の岩に腰掛け、滝を見ながら昼食（12：10）。

少し戻って大滝を高巻く。その上の直角に向きを変えで落ちる不動滝（１０m）を見ながら岩茸石沢の右岸から、岩茸石の滝（１５m）上で沢を渡り本流との間の尾根に上がる。本流への下降はクライムダウン出来そうだったが、万一ということがあってはいけないのでロープを出そうという平本さんの言葉に従い懸垂下降。小ゴルジュを過ぎると苔むした石の平凡な流れになる。そのまま登山道が横切るところまで行けばよかったのだが、もういいかと左岸の踏み跡を上がる（13：00）。平本さんはまっすぐ上に行ったのだが、私は気付かずずっと登山道の下の踏み跡まがいをトラバースしてはぐれてしまった。以前、遡行後、この道を大岳山までいったことがあるのでこの上に登山道があるはずだと分かっていたので心配はしなかったが、声を掛け合いやっと集合（1：30）。登山道を車を止めたあずま屋に下山（1：59）。

水は思ったほど冷たくなく快適に遡行出来て、夏の終わりの一日を楽しんだ。